



Handwritten text, possibly a date or reference number.

Main body of handwritten text, appearing to be a list or series of notes.

Handwritten mark or symbol.

Handwritten text, possibly a signature or title.

Handwritten text, possibly a date or reference number.

Small handwritten mark or symbol.

Handwritten text at the bottom of the page.

Handwritten text at the bottom of the page.

11月14日 午後4時

山崎先生宛 書状

以て此の如く書きたるは
重くして先般の如く
去る通千ノ本名南辰月
と山崎先生の本名を
以て此の如く書きたるは
後日此の如く書きたるは
山崎先生の本名を
以て此の如く書きたるは
山崎先生の本名を
以て此の如く書きたるは
山崎先生の本名を
以て此の如く書きたるは

山崎先生

以國力

[illegible][illegible]

上卷之三
名平

[illegible]

二月八日

「藤原院」

藤原院中

以爲

藤原院

以爲

以爲藤原院中
大勢より藤原院中
今更に藤原院中

二月八日

藤原院中
藤原院中

藤原院中

藤原院中

藤原院中
藤原院中

藤原院中

二月八日

藤原院中

藤原院中

藤原院中

藤原院中

藤原院中

藤原院中

藤原院中

1846

一 身修之旨 亦宜為 戒而遠之 乃為德子 獲德者 乃為德子

一 世間萬物急於用者多矣

十九日

[illegible]

一切物使次第無差乃爲至之極也
即此爲禪

[illegible]

古

一 祖國強盛 民族復興 社會進步 人民幸福

一乃汉唐艺术中重要之表现也
一乃汉唐艺术中重要之表现也

以貴者為上

一 和師夢月家山寺
山寺地靈松木疎
寺方石級絕仕女
寺中寺外寺內寺

一 後編を著し上巻を

二 下巻を

三 書名を改題す

四 巻名を

五 中巻を

六 下巻を

一 貞元院様 何故様 津島様 山内様 吉岡様
表紙に紙を貼る 中巻に紙を貼る 紐を以て繋ぎ
綴る 後巻を物とす

二 月曜

一 日光寺の御朱印を金具に 東西の書院及び書院の
より連なる大石の石の御朱印を 中巻の紙に貼る
云々 後巻の御朱印を 中巻の紙に貼る

三 月曜

一 後編を著し上巻を

二 下巻を

一 柳屋の御朱印を 中巻の紙に貼る 東西の書院及び書院の
より連なる大石の石の御朱印を 中巻の紙に貼る

一 三村市蔵方此中後巻を 中巻の紙に貼る

有也。下。紐。之。統。也。統。之。以。入。子。紐。曰。統。由。是。之。
曰。統。之。以。入。子。紐。之。統。也。統。之。以。入。子。紐。之。統。也。
元。出。統。之。統。也。統。之。以。入。子。紐。之。統。也。
牛。紐。統。之。統。也。統。之。以。入。子。紐。之。統。也。
曰。紐。之。統。也。統。之。以。入。子。紐。之。統。也。
之。統。也。統。之。以。入。子。紐。之。統。也。
之。統。也。統。之。以。入。子。紐。之。統。也。
之。統。也。統。之。以。入。子。紐。之。統。也。
之。統。也。統。之。以。入。子。紐。之。統。也。
之。統。也。統。之。以。入。子。紐。之。統。也。

以。之。統。也。

私。之。統。也。曰。先。之。統。也。統。之。以。入。子。紐。之。統。也。
之。統。也。統。之。以。入。子。紐。之。統。也。
之。統。也。統。之。以。入。子。紐。之。統。也。
之。統。也。統。之。以。入。子。紐。之。統。也。
之。統。也。統。之。以。入。子。紐。之。統。也。
之。統。也。統。之。以。入。子。紐。之。統。也。
之。統。也。統。之。以。入。子。紐。之。統。也。
之。統。也。統。之。以。入。子。紐。之。統。也。
之。統。也。統。之。以。入。子。紐。之。統。也。
之。統。也。統。之。以。入。子。紐。之。統。也。

以。之。統。也。

亦。之。統。也。

一。之。統。也。統。之。以。入。子。紐。之。統。也。

お餅の事はお便しに言はせ
身も腹も痛む方々面談は各々興々然と申す
市花山中御安否を托書申すに
右の事と雖も今日市花山中御安否を托書申すに
一、
信り通す

大目付
小目付

お餅の事はお便しに言はせ

お餅の事はお便しに言はせ
御
右の事と雖も今日市花山中御安否を托書申すに

上三書

付

お餅の事はお便しに言はせ
身も腹も痛む方々面談は各々興々然と申す
市花山中御安否を托書申すに
右の事と雖も今日市花山中御安否を托書申すに
一、
信り通す

而もなるに忠勇却る意とあはれむるに誠を
おさ

勅候のまね取

たし海防並に松平侯家より候

は候に候のまね

ふし

おさ

山医所

おさ

大助

十二

けさの件は目下は、おさ

は度並に候のまね

中候に候のまね

おさ

朝廷より御意に

金より候のまね

おさ

候

一 文

一 令武分

多事 後

又家寺

一 同武分

出隆 後

右目寺

一 浪安

右目寺
涉延 寺

一 令武分

多事 後

右目寺

一 同武分

出隆 後

右目寺

一 朋武分

多事 後

右目寺

一 浪安

右目寺

一 浪安

出隆 後

右目寺

一 浪安

出隆 後

右目寺

内山平次

大納

湯島

湯島

湯島

湯島

湯島

湯島

湯島

湯島

[illegible][illegible]

平

德師院藏

沈氏之書

原

一市勢
真之院林野月夜修竹深處
半仙山南東山山南山南山南
山南山南山南山南山南山南

三月十九日

一、負急流而砥柱於中流者，自是而後始